

第8回北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第8回北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日時：令和3年11月29日（月）午前10時00分～午後0時8分
3. 場所：北杜市役所西会議室
4. 出席者：
(委員) 清水一彦・川村めぐみ・日永龍彦・清水精・清水永一・
芝川又和・小澤浩・岡安祐樹・金谷裕司・望月智恵子・
小池雅美・細川英雄・瀧澤真・高木ひとみ
(事務局) 興水教育長・加藤教育部長・平井教育総務課長・田中教育指導監・
天池総務担当リーダー・安部施設担当リーダー・
原学校教育担当リーダー・柳澤総務担当
5. 議事
 - (1) 北杜市における学校適正配置に関するこれまでの経緯及び審議会におけるこれまでの議論と方向性について（資料①～②）
 - (2) 第2回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップについて（資料③～⑧）
 - (3) ワークショップの日程等について（資料⑨）
 - (4) その他
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：2人
8. 議事録署名委員：清水永一委員、芝川又和委員

議 題

- (委員) 議題に入る前に事務局の方に伺いたいことがあるため、発言を許していただきたい。先日、「北杜市が中学校を既に2校程度に減らすことになっている」という発言を伺った。また、市の第3次総合計画の審議会委員の方から「新・行政改革大綱素案に市立中学を2～4校に統合・再編を進めると記載があったがどうなっているのか」と聞かれたことがあった。我々の知らないところで話が進んでいるのではないかと思い、実際の資料を送っていただいたところ、11月22日時点の第3次総合計画の新・行政改革大綱素案に「9つある市立中学校を2～4校で統合・再編を進めます」と記載があった。この審議会では基本的にはゼロベースで議論をするという説明が繰り返し行われてきたと思うが、素案とはいえ、なぜこのような文言が既に新・行政改革大綱素案に記載されているのか、本日の議論に先立って経

緯を説明していただきたい。経緯によっては、本日の議論や予定されているワークショップを行う必要が無くなってくると思う。また、今回素案という文言ではあるものの、今後何らかの変更の可能性もあるのか、多くの方々が時間を割いて行っている審議会での議論をどのように扱われるのかも説明いただきたい。

(事務局) 現在、北杜市では新・行政改革大綱の策定を進めており、素案の中で中学校の数が示されている状況である。行政改革推進委員会での議論の中で、本市の公共施設の数や延床面積が、県内他市の市民一人あたりと比較しても、非常に多い状態になっており、このままの総量を維持することは非常に難しいというところで、公共施設の総量削減という観点から、行政改革推進委員のご意見を取りまとめたものが、今回の素案に記載されていると認識している。この審議会については、公共施設の総量の削減という観点ではなく、子どもたちの教育のために望ましい形について議論をする場と考えている。新・行政改革大綱素案は今後パブリックコメントも予定されており、その意見も踏まえて、今後修正の可能性もあると考えている。本審議会の委員の皆様には誤解を招く表現であったと考えているが、教育委員会としては、数ありきではなく子どもたちのことを第一に考えていただきたいということが根底にあり、今後もそうした観点から議論していただきたい。

(委員) 総量削減の件に関して、この審議会においては初期段階から前提に考えているはずである。公共施設の延べ床面積の問題も含め、公共施設を小中学校という特性を活かし、併せることで数を減らす案を提案している。議論している場が異なるからそれぞれ案が出てくると説明されても、納得しづらい。また、これまで全く議論されていなかったが、新・行政改革大綱素案では甲陵中学校まで含めて検討している。本審議会では今後市立中学校の中に甲陵中学校も含めて議論していくのか確認したい。

(事務局) 本審議会では市立中学校の中に甲陵中学校を含めずに、今後も議論いただきたい。

(1) 北杜市における学校適正配置に関するこれまでの経緯及び審議会におけるこれまでの議論と方向性について

(会長) それでは議事に入る。事務局に説明を求める。

(事務局) (事務局より資料を用いて説明)

(会 長) 学校適正配置の問題は北杜市の誕生と共に課題である。この審議会にてゼロベースで議論を進めてきているが、事務局・審議会のメンバー共々変わってきており情報共有のための資料である。キーワードは「子ども」「地域」であり、子どもの将来の教育を考えなければいけないが、地域の維持発展も視野に入れて考える必要があることが読み取れると考えられる。また、国の政策も踏まえ、コミュニティスクールやチェーンスクール、縦や横のつながりなど県内外の新しい取組みも考慮し、多面的な視野で考えていく必要があると思う。今の事務局からの説明に対し、何か御意見はあるか。

(委 員) 資料②の作成に携わった者として補足させていただきたい。今回の審議会において、これまでの審議会の議論と方向性について共有させていただいた経緯としては、前回の審議会にて議論を逆戻りするような意見がいくつか見受けられた。委員の交代があり、情報が共有されなかったことが原因だと思う。従って、情報共有のために資料①②をワーキンググループにて作成した。資料②を改めて見返すと、最初の1年間で6ページ資料(1)の6項目のデメリットが挙げられ、これは地域説明会以前の学校関係者へのアンケートで出てきた意見である。それを基に令和2年7月に行われた第3回の審議会にて、最終的に現状維持、水平統合の2案が提示されたが、国の政策等の流れから考えるとこの2案は納得できるものではなく再検討すべきであるという意見があり、8月にワーキンググループが結成された。ワーキンググループにて様々な問題を検討した結果、社会的・教育的観点から小中一貫(垂直統合)案が提案された。ここまで1年かかった。翌月9月の審議会にて現状維持、垂直統合、水平統合の3つの案の説明があり、その際に審議委員から提出された資料が8ページの資料(2)である。その前提の資料として、資料(1)が6項目のデメリットの解釈、対応策についてワーキンググループで検討した結果である。その後、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い審議会の中断を余儀なくされ、現在に至っている。したがって、ここから議論を始めることが、これまでの議論と方向性の道筋ではないかと思う。今日議論していただきたいことは、新・行政改革大綱素案に中学校2～4校という文言があったが、2～4校とする根拠や理由は何なのか。この審議会でも明確にさせていただきたい。それが今後の審議会の議論の方向性ではないかと思っている。

(会 長) 今の説明から資料②の資料(1)(2)の内容を議論の出発点にすることに関して、何か御意見ある方はいるか。

(委 員) (意見なし)

- (会 長) 御意見が無いので、今後審議会では先ほど説明のあった方向性で議論を進めていきたい。また、新・行政改革大綱素案にて中学校を2~4校に削減するという文言の記載があることを共有されたが、本審議会では何ら触れておらず、結論も出してもいないため無関係であるが、事務局からこれらに関して御意見はあるか。
- (事務局) 新・行政改革大綱素案について、教育委員会から2~4校ということの提示はしていないことは申し上げたい。行政改革推進委員会の議論の中では、県内他市の状況等を踏まえて適正規模が2~4校が妥当ではないかという発言があったのではないかと思う。
- (会 長) 2~4校にこだわる必要はないと思うし、今後変更の可能性もあると先程説明があった。我々は我々のスタンスで、結論を出すべきである。色々な教育改革を紐解いていくと、理念のない改革は失敗すると考える。教育理念・教育論に基づいた改革案を出していきたいと思う。
- (委 員) 今回出していただいた資料で、理解が深まった。
質問だが、資料②7ページの⑥教員配置に関して、対応策に「ICTの活用し、8校全体で教科教員を共有」とあるが、現状として学校のクラス数に応じて教員が配置されており、小規模の学校では全教科の教員が配置されていない状況である。県において無免許教員をなくすために、非常勤の教員がほとんどの学校に配置されている。対応案にあるような8校全体で全教科の正規教員を共有することになれば良いが、これが本当に実現可能なのか疑問である。また、ICTの活用に関しては、今年から市より一人一台端末を整備し、一気に進んだと感じている。一方で、Wi-Fiの問題や端末がよく壊れたり繋がらなかつたり等の不備が散見される。今後これらの問題が解消されていくことを期待しているが、ICTの活用を進めていくにあたって不安に思う。他市の様子を聞くと、学校数の少ない自治体の方が、良い端末を整備していると聞く。現段階で何か対応策の見通しは立っているのか伺いたい。
- (会 長) ICTの整備などは国がDX化を率先して進めているので、遠からず各地域も整備されると思っている。教科の共有についても、国でも方向的には考えており、大学でも複数の大学で専任になったり、大学間だけでなく大学と企業の専任になったりしている。これは学校教育にも応用できると思う。
- (委 員) 御意見にあった通り、クラス数に応じて教員数は指定されている。これからは個別学校ごとに独自性は持つべきだと思うが、北杜市としては中学校

の教育を横に連携させていくことを視野に入れた方が良いと考える。北杜市の政策として、全教科の正規教員が共有されるように、学校ごとに上手く配置できないものかと考える。私が個人的に教育長と話をした際に、全ての教科について正規教員を配置したいという思いをお持ちだったので、出来ればそのような事が実現できれば良いと思う。非常勤の先生だと文化部的な活動ができないため、文化的な方面に興味関心のある子どもたちが活躍することができないと教育長は仰っていた。しかし、実際のところ学校を統合しても、例えば北杜市にある8校の中学校を2校に統合したとしても生徒数は500人程度であり、同程度の昭和町押原中学校でも全教科の正規の職員を配置することができなかった。1,000人規模の学校であっても配置できない可能性がある。そこで、北杜市の施策として、全ての教科の正規教員を甲陵中学校も含めて共有しながら、それぞれの場所で活躍していただける学校づくりの方向性を明確に打ち出していけば道が見えてくるのではないかと考える。個別の学校単位で考えるのではなく、北杜市の中学校教育を教育委員会でリーダーシップをとる必要があると考え、施策を出している。確実に実現できるかという点も難しいかもしれないが、今後こういったことを視野に入れるべきと考え提案させていただいている。

- (委員) 補足であるが、現在の議論として現状維持、垂直統合、水平統合の3つの案を検討することとなっているが、社会的・教育的観点から垂直統合が望ましいだろうという意見が、少なくともワーキンググループの中では出ている。しかし、水平統合1～2校が望ましいという考えもあると思う。その場合、水平統合が望ましいと考える根拠と理由を明確に出していただきたい。
- (会長) 垂直統合、水平統合どちらを推進するべきかに関して御意見ある方はいるか。
- (委員) ワーキンググループでは、垂直統合を推す方もいれば、水平統合を推す方もいた。PTA代表としては、アンケートを取ると垂直と水平の意見がちょうど半々であったため、立場は明確にはしていない。
- (委員) 学校現場の立場から考えると、垂直統合のメリット・デメリットについて説明頂き理解はできるが、現場の肌感としては今の小規模な小・中学校が垂直に統合されることで、本当に課題に対応していけるのかと疑問に思う。疑問に思う方は、学校現場や市民の方の中にもいるのではないかとと思う。小・中学校が垂直に統合することで、挙げられているデメリットが本当に解決していくのか疑問に思うので、必ずしも垂直統合をするべきでは

ないと思っている。他の選択肢として、水平・垂直を組み合わせる方が、現実味があるのではないかと考える。明確な根拠を挙げることは難しいが、人数、教員数も保って今より状況はよくなると思う。

(委員) これまでワーキンググループでも同様のやり取りをしたが、これまでの「課題とは何か」がよく分からない。たとえば、少人数はダメとおっしゃっていてもなぜダメなのか明確な理由がないため、問題が整理できない。何が課題なのかを共有して、それを解決するために水平統合や垂直統合などの手法を考えて行くべきと考える。

(委員) 垂直統合、水平統合どちらを推進すべきか、ワーキンググループとして垂直統合を推進するという結論が出たため、反対意見が無いのならば垂直統合を採用するという結論はやや乱暴ではないと感じる。

数字の面を考えると、北杜市の出生数を見ると比較的安定はしているが、17歳以下の児童の数を見ると2017年5,917人から2021年5,134人まで減ってきており、また北杜市の人口ビジョンを見ると2020年に約47,000人から2060年31,221人に減ると想定され、北杜市自体の人口が減っていくことを表している。こうした状況の中で小学校の数を各地域に残しておいても、地域自体が縮小していく中で学校を地域が支えていくことができるのかといった点も考えるべき問題であると思う。市長が子どもの数を増やすと宣言されているが、仮に子どもの数が増えたとしても地域まんべんなく子どもの数が増えていくとは考えられず、一極集中することが予想される。そうすると学校が足りなくなる地域と余る地域が出てくるが、この状況に柔軟にフレキシブルに対応ができるようにしておくこと重要だと考える。

また、人口を見ていると平均年齢は徐々に上がっていくが、地域によっては老人ホームなど高齢者向けの施設が重要になってくる地域も出てくるのではないかと考えられる。その場合、学校維持に掛かるコストを他に振り分けていくことも重要であると考え。垂直統合を進めていったときに、人口も子どもの数も減っていくことを前提にすると2回目の統合再編が出てくる可能性も考えられる。その際に垂直統合をした小中一貫校と、垂直統合していない学校を合併させるとなった場合、合併が難しくなるのではないかと考える。垂直統合ありきで議論が進むと、水平統合のメリットが十分に議論しつくされない中で決まってしまう、時期尚早だと考える。

(委員) 私の説明不足と短兵急な話だったので驚かれたかと思うが、垂直統合ありきで議論を進めるというわけではない。先ほど説明した経緯から分かるように、最初の一年間は現状維持か水平統合のみの2案で議論がされてき

た。その中で出てきたデメリットが6項目あった。しかしその6項目のデメリットを一つ一つ検討していくと、水平統合では解決しないということに、ワーキンググループでは気付いた。そこで、文部科学省の10、20年の流れや新しい学習指導要領の内容を検討していくと、新たな解決案として垂直統合の選択肢が出てきたので、ワーキンググループにて垂直統合案を作成した。課題解決のためには何らかの組み合わせが必要だと感じているが、最終的には地域が決めることであろう。この審議会としては地域の意向を受けて、どういう方向に進めていくか決めることが求められてくる。

(委員) 先程、人口が増えたとしても一極集中する可能性があることと、学校を維持することで他の施設の維持の妨げになるのではないかという御意見があったが補足させていただきたい。垂直統合するとなった場合、統合したばかりで地理的にも遠い高根地区の小中学校を施設一体型にすることは難しいと考えている。その他の地区を垂直統合するとなった場合は、基本的には小・中学校2施設を1施設にしていく施設一体型の学校を検討しており、公共施設の削減を実際に進めることができる案である。例えば、2～4校案にすると甲陵中学校を除けば中学校を6ないし4校減らすだけになるが、縦につなぐことができれば、高根地区を除いても7校分の学校の維持管理費が不要になるので、垂直統合は財政的な面も考えて示していることは理解いただきたい。山梨県に限らず、子どもの数が減ってきている地域の学校の様子を見てみると、中学校のない地域には若い人が中々入ってこないと感じている。地域づくりにおいて小・中学校があることは選ばれる理由の一つである。水平統合によって中学校をなくした地域は、コミュニティ自体が不要と判断されているように見えると感じる。地域づくりについても考慮した結果の垂直統合案であると理解して頂けたらと思う。

(委員) 学校の存廃は箱ものを合わせるというだけではなく、10年100年先の教育に関わる問題と言われている。人口減少地域、過疎地域の学校の統廃合は地域の存続に関わることから、地域を疲弊させない形を考えると、学区をフレキシブルにするところもあれば、小規模特認校制度を利用しているところもある。それらの導入も含めて考えた上で垂直統合案を検討した。垂直統合した地域としていない地域の差に関しては、北杜市として義務教育の9年間のカリキュラムを統一していくという考えを持てば、小中学校の教員が併有という方法もあり、教員配置の問題も変わってくる。他にも、福祉施設や図書館を学校と併設している地域もあり、既存の学校に囚われない新しい事例が出てきており、北杜市が抱えている延べ床面積の縮小問題も、解決することができる可能性がある。垂直統合は、私たちがいかに

既存の学校に囚われず、未来の学校について考え、地域や学校を疲弊させないで、集落を存続させることができるプランを検討した結果であると思う。

(委員) 現状から考えると、統合することは避けては通れないと思う。今検討されている案に垂直統合、水平統合が挙げられているが、先日ワークショップを行った際に使った資料にそれぞれのメリットとデメリットがまとめられていた。それぞれの案にメリットとデメリットがあるが、デメリットをカバーしようすると限界があると思う。垂直統合、水平統合どちらを選ぶにしても、諦めなくてはいけない事柄が出てくるが、我々も市民も納得できる共通の認識を持たないと決めることができないのではないかと感じている。北杜市の子どもをどう育てていくのかといった観点から、優先事項を決めてどの案を選んだのか説明ができないと市民の皆様も納得できないと思う。佐久穂町の参考事例を挙げると、佐久穂町は垂直統合を選択した。その理由をみると、検討委員会の提案書の中に共通理念が記載されており、垂直統合を選択したことへの理解が深まった。北杜市では子どもたちをどう育てたいのか、拠り所のようなものはないのか疑問に思う。

(委員) 垂直統合案は、「地域と子ども主体の教育をするために何が必要か」という理念に基づいて、これまでのデメリットについて解釈がなされている。ただ、こうした理念が共有されないままワークショップが行われてしまった。デメリットの解釈をよく読んでいただき、なぜこのような解釈をするのか考えていただきたい。

(委員) 資料⑧にて統合した小学校の児童たちにアンケートを取った結果をまとめてある。子どもたちのアンケートの結果におけるプラスの意見は、メリットに値するのではないかと考える。

(会長) まだ議論はあると思うが、次回の市民ワークショップに関して、先程の資料②の6～8ページの考えを基に市民に意見を伺いたいと考えるが、何か御意見はあるか。

(委員) 水平統合のデメリットへの解釈については議論されているかと思うが、垂直統合のデメリットへの解釈についてはワーキンググループで議論されていないのか。垂直統合のデメリットへの解釈についても提案していただきたい。

(委員) 検討していないわけではなく、今回の資料には記載されていないだけであ

る。デメリットには人間関係の固定化、部活動ができないことが挙げられると思う。人間関係の固定化については、資料②の(1)⑤にて検討している。縦の関係を活用することで人間関係の固定化を防ぐことができることがこれまでも言われてきたが、北杜市の教育カリキュラムを一体化することによって学校行事なども学校別に行う必要がなくなってくると考えられる。ワーキンググループの中で、委員が小学校のスポーツ少年団の話をされ、小規模の学校でも子どもたちが学校以外の場所で繋がる機会があれば、十分に人間関係を作っているという発言があった。北杜市が小・中学校を全体で繋げることができれば、部活動の問題も解決できるのではないかと思う。私としては人間関係を固定化したほうが良い部分の方が強いと考えるが、反対意見も多く挙がる。合同部活動や ICT などを活用し、オンラインとオフラインのつながりを作ることで、子どもたちは多様な人と人のつながりを作ることができる。デメリットを解決するためには統合の方法だけでなく対応策も併せて考えていかないといけない。前回のワークショップの資料をすべて理解して頂ければ、今質問にあった部分も含まれていた。いくら検討しても考えが伝わらず、お互い意見交換をするのみで、勿体無いと感じている。

(委員) 先程、学校の有無と地域の発展がリンクしているという意見があった。一クラスの人数は増えることはない状況の中で、北杜市内をみると小規模の小学校では今年の3月の時点で在校生数が112人、114人であり、中学校の在校生数は64人、65人の単純計算で1学年20人を割っている学校が既にある。このような学校をどのように発展させて、地域とのつながりをしっかり保っていくのかがとても重要だと思う。学校が無くなることと地域の発展がどのくらい密接な関係にあるのかは厳密には示せない部分があると思う。また、密接な関係にあることを前提に議論を進めていくと、審議会でも検討すべき「適正規模」という考えから外れてくるのではないかと思う。

また、学校があれば必ず地域は発展するのだろうかとも思う。垂直統合して過疎化が進んだ地域に学校があった時に、小学生が街灯もない道を何キロも歩いて登下校することになれば、投資をして通学環境を整える必要も出てくると思う。一方で仮に水平統合した場合、通学時にスクールバスを整備することで、家の近くから乗車して通学でき、危険な通学路を歩いて登下校する必要も無くなるというメリットもある。また、スクールバスを地域住民に開放することもできれば、地域住民も暮らしやすくなるのではないかと思う。学校の有無に関わらず、地域の発展は行政のやり方次第で支えていけるのではないかと思う。

(2) 第2回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップについて

(3) ワークショップの日程等について

(会 長) それでは次の議事に入る。事務局に説明を求める。

(事務局) (事務局より資料を用いて説明)

(会 長) 資料⑥が次回ワークショップの中心的な資料になる。方策まで含めて審議会で答申を出して、それから教育委員会で計画を策定し、市民への説明会を開催しながら、具体的な実行という段階になっていく。この審議会で示した方策通りにいくとは限らないが、我々はその点を十分に承知しながら、まずは理論武装という意味で、資料⑥で第2回ワークショップに臨むということで理解いただきたい。

ワークショップの日程について、事務局に説明を求める。

(事務局) (事務局より資料を用いて説明)

(会 長) 会議のスタンスとして垂直統合、水平統合に縛られず柔軟な御意見をいただきたい。第2回ワークショップを踏まえて、1月末頃に次回の審議会の開催を予定している。

(委 員) ワークショップでは、審議会は何をどこまで議論しているのかという質問が必ず出るが、資料②の6～8ページが審議会の議論の方向性であるということをワークショップの参加者に明示する必要はないか。

(会 長) どのような形で出すかは検討する余地があるが、資料②の6～8ページが審議会の議論の方向性であるということをワークショップ開催時に共有することに何か御意見はあるか。

(事務局) 本日資料①②を委員の共通理解を深めていただくために提出されているが、市民の方々へは③～⑧を用いて行う予定である。事務局としては資料⑥を用い社会的・教育的観点から垂直統合案が提案されたことも含めて、参加者の皆様に審議会としての考え方をしっかりと説明し、よく御理解いただいた上で、御意見をいただき、後日審議会にて引き続き審議していきたいと考えている。

(委 員) 前回のワークショップにて長坂地区の参加者が少なく勿体無かった。多様な意見をいただくことのできる機会なので、私からも参加を呼びかけ

るが、事務局からも呼びかけてほしい。また、垂直統合という考え方が浸透しておらず、意味を理解していない方も多く見られたので、説明をしっかりとっていただきたいと思う。

(委員) 前回同様ワークショップの見学に行こうと思うが、マスク姿で後ろから見学していることで、不審に思った、監視されているように感じ不快だという声を聞いた。審議会の委員が見に来ていることを伝えていただきたいと思う。また、SCOP のファシリテーターの準備をきちんとしていただきたいと思う。

(会長) 以上で、議事を終了する。

終了